

議事録

内 容	第4回豊橋市まちなか図書館（仮称）実施計画策定懇談会
日 時	平成27年9月19日（土） 午前10時00分～12時00分
場 所	豊橋市職員会館 302会議室
出席者	内藤 咲野、白井 琢也、柘植 晶子、鮎川 真世、荒川 雅彦、河合 萌杏、中野 真美子、内浦 有美、木下 博貴、中井 孝幸（アドバイザー）、岩瀬 彰利（アドバイザー・中央図書館司書）、事務局（まちなか図書館整備推進室：伊藤室長・加藤主幹・小林主査・三浦、図書館：天野館長）、実施計画策定委託業者

要 旨	
	<p>1 意見交換</p> <p><u>各ゾーニングのサービスや機能について（前回の続き）</u></p>
委員	<p>○リラクゼーションゾーン</p> <p>通常、本と雑誌は通常は離れているので、専門的な本、仕事に役立つような本（経営、理工）や雑誌が同じ場所であればよい。ラーニング的な部分もあってよい。空間は、開放的なほうが良い。カチッとした雰囲気は嫌だ。また、借りるときに、かばんの貸出があるといい。その中にあらかじめチラシを入れておくなどしておけば、広告効果もあるのでは。</p>
委員	<p>少し雑踏から離れて、静かにメラメラが芽生え、これやりたい！と思える場所。新しい発見があると良い。空間は、外を向いているのはあまりふさわしくない。本が身近にあるのも大切。静かなんだけど、閉鎖的ではない。頑張っている人も見れるような空間が良い。</p> <p>また、しっかりとした椅子でゆっくり座りたい。質の良い家具。ある程度の話し声などは許容できる。それくらいの刺激があったほうが自分の「メラメラ」感がでる。</p>
委員	<p>リラクゼーションはモードを変えることだと思う。靴を脱いで上がれる場所があるとリラックスできる。くつろげる場所があると気持ちを切り替えることができるので良い。</p> <p>本のテーマとしては、デザインや美術など、活字が少ない本が良い。BGM（クラシック）が流れているようなイメージ。</p>
委員	<p>津市の県立図書館へ行ってきた。複合施設になっていて、核として図書館があった。中央図書館と同じように雑誌があるが、幼い子供がいるとなかなか行けない。ガラス張りの部屋がいいなと前に言ったが、その中で子供がクラフトや料理教室をやっている、その間自分の時間ができたときにそういったゾーンに行けたらいいな。ここにこの部屋を使用するのに制約が多い。お母さんたちが公園の周りでぼんやりできるような、リラックスできる環境があれば良い。テラス席があればよい。自分の時間を持てるような空間が良い。</p>
委員	<p>私は図書館では本を読まない。椅子がフラットに並んでいて、沢山の人がいるので、リラックスできない。近くに人が来ると気になってしまう。背もたれ椅子などあればよい。カフェに行くのは女性が多いので、空間づくりは大切。木を基調にしたイメージ。</p>
委員	<p>体が埋まってしまうような、大きなビーズクッションのようなものが広い空間に並んでいたら可愛らしいと思う。アロマも定期的に変えて、今月の匂いはこれです、みた</p>

委員	<p>いな空間があれば落ち着ける。BGMはクラシックかな。</p> <p>小学生の頃、すべて木でできた空間があった。そこがすごく好きだった。特別な空間だったのでなかなか入れなかったけど、当時からここで本が読めたらいいなと思ってた。アロマも良いけど、木の匂いは落ち着ける。漫画等より、写真集やちょっと眺める程度の本があれば落ち着けるかな。</p>
委員	<p>託児所みたいなところがほしいとお母さんと話していて思った。子供が小さい時は本を読めないことがあったらしい。曜日限定でもよいので、その瞬間だけでも、子供を預けられるような仕組みがあれば良い。自分は、あまり騒がしくはないけど、音がするような場所がいい。静かすぎると今までの図書館と同じようになってしまう。私が本を読むときは教室か、家で静かなときに読むか、だけなので。ほどよく騒がしい音が聞こえる程度かな。本の種類は、いつも読まないような、山の自然などの写真集とか、外国の写真集とか。普段見れないような本がいい。</p>
委員	<p>文芸書は家で読めばいいので、持ち帰るのが大変そうな大判の本が良い。文字が多いとそこまで見ないし。</p>
委員	<p>イメージなんですけど、これまでの文化や歴史との融合を感じられるようなものがあると良い。選書も内装もそうなんですけど、中央図書館がやっていた回想法(※)が素晴らしくて。まちの移り変わりが分かるようなもの。豊橋のまちなかにはどの時代にもリラックスしたりとか、知的な追求をするためのスポットがあったと思う。喫茶店、百貨店、商店街とか。リバイバルする必要はないが、そういったものと新しいものが融合されるようなもの。意味のあるリラクゼーションスペースに。</p> <p>※回想法 高齢者の方に昔の写真とか懐かしいものを見せ、脳が活性化されて記憶を思い出させるような療法。(オブザーバー説明)</p>
委員	<p>本だけではなく、郷土のもの、歴史に触れられるようなものがあると良い。さきほども誰かが話していたが、静かにメラメラとなれる場所。単に休憩したり、熱いから涼しいところに行くだけでないところにしてほしい。鯖江市のJK課が開発した空席が分かるシステムがあるが、そういうシステムと相互の相乗効果。</p>
委員	<p>緑が見えると落ち着く。公園に飛び出たテラス等、緑の空間が外にある。開放的な空間は落ち着いて話せるなあとと思う。リラクゼーションの中にもバリエーションがいくつかある。ゆっくり見れる写真集などは外で、プールサイドにあるようなデッキチェアで見れるといいなと思う。本屋に行くとき一番最初にくるのは自己啓発本が多いですし、私がいるのがビジネス街だからかもしれないが、そういうのは買っても読まない。自己啓発本などは、より静かなところで読みたい。</p>
オブザーバー	<p>「闘志が燃える」というのは大切かなと思う。環境も大切だとは思。図書館でも自分のお気に入りの席などあったりする。私の場合はそこでメラメラする。図書館の静かさが苦手で、リラクゼーションはうるさくてもよいが、完全に静かなところであってもよい。シーンによって違うようにする等工夫が必要。岐阜の図書館は、畳がある。寝転びながら読めるとよいなとも思う。</p>
アドバイザー	<p>現在、大学の図書館を調査しているが、どこもラーニングコモンズをいれている。「図書館は静かに」というところから、複数のグループで作業させ、意見をまとめて授業で発表するような、「意見のやりとりをする」授業が増えてきている。椋山女学園大学、愛知学院大学等ラーニングコモンズができたところを調査した。椋山女学園</p>

大学はオープンで、飲食できて話しても良いような自由なところ。愛知学院大学はガラスで仕切っているようなスペース。ラーニングコモンズはざわざわしているのだが、その中で、1人で勉強している人が7割いる。普通の閲覧室も7割が1人で使っている。ラーニングコモンズだからと言って、みんなが話しているわけではないし、グループで使っているわけではない。静かなところで、またはざわざわしているところで勉強したい人、グループワークしたい人等、6パターン位あるんじゃないかという調査結果が出ている。ゾーン毎で、ここで何々をしてはいけない、と決めるのは良くない。どこで何をやるかなんてわからないので、多様な使い方ができるようにして敷居を下げていくことが重要。閲覧室の中で勉強しているのは、人がいるから。スターバックスみたいなのところも、人がいて、埋没できるから。頑張っている人を見ると頑張れる人もいる。とある大学図書館では、利用者がすごく減っているの、なんとか人を入れたいということで、寝に来てても良いとした。携帯の充電をしてもよい、まずは図書館においでと。外を見ながら寝れるようなスペースが30席くらいあるのだが、そこでみんな寝てる。これは大学の調査を行った中で一番多かった。寝ることが良いことかどうかは別として。昼の意見も出たが、実際に昼コーナーを使っているのは高校生で、お年寄り使わない。グループで使いたい人が使うので、学生が多い。掘りごたつ式でやると結構楽に座れるので、それも1つの考え方かなと思います。

○ラーニング・クリエイティブゾーン

委員 コワーキングスペースは、事業をやっている人の利用が多いので、ここでやるのにはふさわしくないと。小さいパソコンを持っていると思うので、それを持込できて、データベースでパスワードを入力すると閲覧できるような仕組みがあると良い。

委員 イベントの準備をする際、作業をする場所がない。イメージとしては、小空間があるのではなく、みんなで作業ができるような場があると良い。ガラス張りにするなど、遮りはあるが、視線は通る空間。大小のバリエーションがあってもよい。あと、図書館の分類方法がよくわからず、行っても最初に諦めるパターンが多い。よい検索方法があると良いなど。

委員 机の大きさは、6人くらい。ぎゅっと感があるとよい。

委員 ラーニングクリエイティブゾーンは、まちなか図書館の一番の目玉になると思っている。新しい図書館機能の形。ここは、新しい知識、技術を求める本気の方が来て、また、情報提供ができる場、双方向ゾーンになるのかなと。市民と図書館、市民と市民の双方向にも成り得る。選書も企画にしても、人材が一番の力。司書、大学、市の部署、サイエンスクリエイティブなど。まちなか活性課は、まちづくり団体や商店との繋がりがあって、そういうところと連携すれば新しい形になると思う。おしゃれな形ではなく、豊橋らしい泥臭い形が良いと思う。あとは発信。掲示など、情報が集まる場。

委員 地元のことをインターネットで調べても出てこない。そういったときに図書館なら地域の事を知れるかなと思った。相続や家の売買などの悩みがある。ネットで調べても自分から遠い情報になってしまう。どこに相談したらいいのかわからない内容を相談できる場があればよい。それと、豊橋はクリエイティブが弱いかなと感じている。クリエイティブに繋げる仕組みがあればよい。頑張った先に何かあるのかと知らない人が多い。高校の放送部だと、放送部の甲子園と言われているNHK全国放送コンテストがある。優秀作品は、NHKで実際に放送してもらえる。こういった外の世界を知らない人が多いので、そういうのは勿体無いなと思う。

委員	家で勉強が出来ないので、勉強できる空間があったらいい。すりガラスの空間が田原図書館にはあるが、そういうのがいい。中央図書館は、みんな前にむかってやっているが、そういうのは嫌。人がいるけど、自分の空間があるイメージ。
委員	静かなところと、人のいるところを分けることは必要。 周りの友人は、やりたいことがある人は大学に行き、やりたいことがない人は働くことを選ぶ。みんなやりたいことがあればいいのに、と思う。将来のことを考えられる場所になったらよい。
委員	クリエイティブゾーンというよりも、テスト勉強よりも学校行事の準備をするのに使いそう。学校での課題で使ったりするかもしれないが。
委員	ラーニングとクリエイティブは近くないのではないかと思う。どっちかという、みんなで作るクリエイティブなところは静寂ではない。「何か生み出す」と「静か」は繋がらない。鈴鹿市の図書館は、二階に広い勉強スペースがあるが、勉強スペースと言われてしまうとそうとしか使えない。豊橋は、まちなかに出てきて勉強している人がいる。それは珍しいと思う。1人でこもって集中して、そこでやる必要があるのかなと思う。ローカル感、臨場感、その場でやることに意味があるのを豊橋らしさと混ぜていけたらいいのかな。グーグルとは違うそこでしか得られない情報が得られたり、そこでしか会えない人がいたり。電子書籍は扱うのか。
アドバイザー	電子書籍の図書館用コンテンツは現在少ないので利用しづらいが、これからどんどん広がってくると思う。
委員	本を探したいと思った時に図書館に行く。ただ本当にその本があるのかどうか分からない。電子書籍があればその場で読めてしまうから良いと思う。それと、その場で読んで借りたい本か判断できる。
アドバイザー	本の探し方で一番多いのは、本棚から。次に多いのが、OPAC（図書検索システム）で調べて本棚に探しに行く方法。これらの方法は、併用されているように思っている。図書を管理する側としては、本が行方不明になるのが一番嫌なので、本に番地を与えてその番地の本棚に置く。ただ利用者の人たちは、番地では探していない。興味のある分野があればつらつらと見て、その棚の近くでなにかないかなと探す。 番地で管理しない方法として、本にICタグをつけて、本棚のセンサーがそれを感知する。それだとどこに返しても行方不明にならない。そうすると自分たちで返せる。そういう仕組みもありかな。 席について、6人がけという話があったが、真ん中に座ると座れないので8人がけがいいかなと。 あと、ラーニングとクリエイティブの話があったが、本当にクリエイティブする人はラーニングしなければならないと思っている。自分たちがやるよりも前にやられているとまずいんですよ、そうなる調べないといけない。クリエイティブな人たちは調べている。知っている。でないと、ぱっと出てこない。クリエイティブはリサーチだと思うので、それを支えるというのはなかなか大変だが、ある分野だけ特化してまちなか図書館がサポートするというのはありだと思う。図書館がハブになればいい。利用者同士が勝手につながってくれればいい。皆さんの活動が見えるのがいいなど。 テスト勉強について、一宮市は学習室を中に入れている。愛知県はみんな学習室をつくりたがるんだが、田原は作っていない。図書館の中に作る必要はないかなと思っている。学習室は固定化されてしまうのでどうかなと。

施設全体のイメージ（動線、各ゾーンのつながり等）について

委員 図書館のエントランスは通常一方方向で、入ってまっすぐ通路があるイメージなので、ウェルカムされている感じがする方がよい。受付の配置もどうなってくるのか気になる。

委員 駅前大通から見える形は大切。顔となる部分であり、ショーウィンドウでもある。本で囲わない方がよい。視線を遮るものをどうするか。何かやっているんだなと見えるように。広場からの視線も必要。

委員 配置は距離が近いほうがよい。名豊ビルは、昔は書店等があつて、外から見えた。ガラス張りで、エスカレーターが見えていた。ノスタルジーかもしれないが、まちなかで買い物している、図書館があると気持ちが沸くので、いいかなと。

委員 騒いでもよいところと、静かなところが分かれていて、声が聞こえないようなところだったら良いと思う。別の場所からの声が思い切り聞こえてるとあまり良くない。エレベーターは、外の景色が見られる方がよい。エレベーターは閉じ込められている感覚よりも、外の景色が見える方が楽しい。

委員 非常口が気になった。人が集まる場所に非常口があるとよいが、足が不便な人が長い距離を歩くとなると大変だなと思う。エレベーターから外が見えるようになっていたら私も乗りたいと思う。雲の形をしていたエレベーターがあつたらいいなと思う。

委員 季節によって花があつたりしたら、集合場所としても使われていいのでは。

委員 3階にしか用がないときだったら、エスカレーターが近くにあつたらいい。

委員 外からの動線として、地下道が暗いので、佐鳴予備校がある側からすぐに渡れるようにして欲しい。中の動線については、スロープが利用しやすいようエントランスにあるとよい。

委員 スターバックスの横にある階段、エスカレーターの存在はあまり知られていないので、そのようになってしまわないかなと危惧している。あと、ベビーカーの方は、スロープよりも直接2階に入れたらいいかなと思う。遠回りさせられずに、行きやすい動線で。

アドバイザー 配置についてはコンセプトを重視しワクワク感を取るか、使いやすいという距離感を取るか、ということになるが、ここに関してはワクワク感で良いと思う。ロンドンに「アイデアストア」という図書館が最近出来た。「知の広場」という本があるのだが、そこでも紹介されている。ロンドンは移民問題で悩んでいる。それを解決するために、言葉やその他の支援を図書館がやる。無料が原則だが講座は有料のものもある。地域が抱えている問題を解決するのが図書館ということで、アイデアストアでは、商業施設の中に入っていて、ぱっと見は商業施設。

人を沢山集めようということではなくて、豊橋が抱えている問題を解決していくということがベースにあつて、いろんな活動が見えたほうがよい。アイデアストアは、お店のように展開している。そのようなわかりやすいコンセプトがあるといいかなと思う。これから設計していくうえで大切なのは、サービスカウンターをどこに置くか。今までは出入り口のそばにおいている。それは不正持出しの際にさっと行けるように、というように、今までは本は管理するものという考え方だった。これではウェルカム感がなくなる。それをどうするか。ヨーロッパの図書館は古い建物に図書館を作

	<p>っているので、テラスしかない。空いている、中庭空間がある。入ったら広場があって、遠いところにカウンターがある。思い切ってそういうのもいいんじゃないかと。本を持ちだされることを容認していることではない。例を挙げると、1年間で7000冊ほど持ちだされている図書館もある。そういう例もあるが、可能性を考えると、入ってどーんと広場があって、そこはざわざわするのが当たり前、いろんなことができるようなスペース。3階になると静かになっているような。アイデアストアのような豊橋のコンセプトがあるといい。きちっと図書館としてはやると。</p>
オブザーバー	<p>名豊ビルは、かつては豊橋の中心だった。それが駅から離れているということで衰退していった。個人的に言わせてもらえば、私は広小路でずっと住んでおり、豊橋のまちなかの栄えた頃から衰退していく過程を実感している。新しくできる図書館は、図書館ではあるものの集客力のある、再び人を戻すような図書館ができればいいなと思っている。</p>